

解説1

# 産業用ロボット市場の現状と 産業用ロボット技術のイノベーション

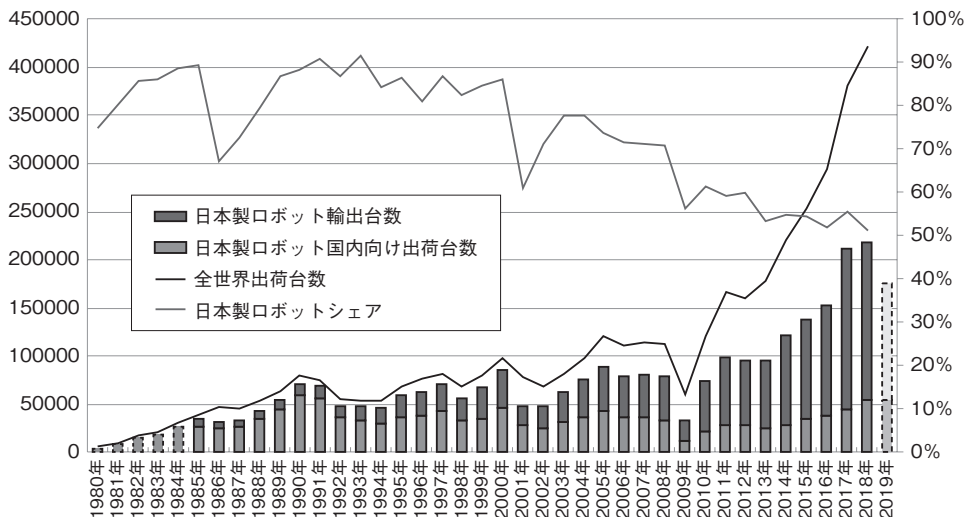
日本ロボット工業会 小平 紀生\*

\*こだいら のりお：ロボット技術検討部会長，FA・ロボットシステムインテグレータ協会 参与，セーフティグローバル推進機構 理事(ロボット委員長)，三菱電機 FAシステム事業本部 主席技監

## はじめに

日本の産業用ロボット（日本ロボット工業会の統計区分でマニピュレーティングロボット）の出荷台数は、2014年に初めて10万台を超えて以後は順調に伸び、2017年には20万台を超えて規模倍増を果たした。2018年はペースこそ鈍ったが何とか21万台を超えた。2019年は一転して中国

経済の停滞と貿易環境の多くの不安材料を反映して、残念ながら20%前後の大幅減が予測される(図1)<sup>1),2)</sup>。2017年までの市場拡大は、中国製造業の設備投資に支えられていた傾向があり、今後のロボット市場の動きも、中国経済、世界市況の変化に左右されるため予測しがたい。しかし全世界のロボット需要はいまだに、たったの40万台にすぎず、これで全世界の自動化需要を満たしているとはどうも考えられない。したがって、市



2019年の日本製ロボット推定値は、1月～9月までの実績値を基に2018年の経過を参考に算出した予測値である

図1 産業用ロボットの市場推移